

## 高齢者福祉施設における介護職員の負担を軽減するための建築計画 その2 介護職員の精神的軽減のための施設計画的要因

正会員 ○ 張 雁東\*

同 毛利 志保\*\*

同 加藤 彰一\*\*\*

高齢者施設 介護職員 運営  
見守り サービス動線 休憩スペース

### 1. はじめに

前報では、職員の身体的な負担軽減を目的とした浴室計画のあり方についてその配置と運営、空間計画の側面から論じた。その結果、分散配置と適切な所要寸法の必要性が示唆された。ただし、職員の負担は身体的側面のみではなく、ユニット型施設が普及して以来、職員配置が小グループで構成されることにより、特に経験の浅い職員にとっては精神的な負担の割合が増加している<sup>1)</sup>。

そこで本報では、介護職員の精神的負担要因について実態を把握し、そのストレスを軽減するための建築計画について探ることを目的とする。

### 2. 調査概要

表1に調査概要を示す。負担感に関するアンケート および前報での対象施設において施設長および介護主任に対し職員・勤務体制および離職、負担要因に関するヒアリングを行った。

### 3. 調査結果

#### 1) 対象施設における運営体制

対象施設における運営体制および離職の実態について表2に示す。離職率については、8～27%と施設により著しくばらつきがあるが、その要因はK施設を除き精神的負担が最も高かった。また、夜勤体制についてはいずれも1名の職員が2ユニットの入居者を担当しているが、奇数ユニットであるM施設のみ若干手厚い体制を確保していた。また全施設ともに8時間勤務であった。

全体の勤務時間帯については、いずれも4種類（朝番、日勤、遅番、夜勤）で運営しており、勤務開始時間についても若干のズレ（最大1時間程度）がみられる程度であったが、H施設のみ朝食、夕食時の職員が単独になる時間帯を中心に臨時職員を雇用していた。

#### 2) 介護職員の精神的負担の要素

ヒアリングより、精神的な負担要因を調べると主に「利用者に関すること」、「介護業務に関すること」の2点に分類できた。施設別の実態を表3に示す。

前者では「夜勤時に複数の入居者の要望に対応できないこと」、「入居者の言葉や暴力」、「最期の見送り対応」が挙げられた。後者においては「収納スペース不足による負担感」「死角が多い」、「集中型浴室のシフト調整業務」「夜勤後の残業や生活リズムの混乱」が挙げられた。特に多かったのは、夜勤時の負担と浴室関連のシフト調整であった。

#### 3) 負担軽減の視点から見た平面計画の特性

平面計画について、職員の精神的負担軽減の視点から各施設の現況を示す（表2再掲、図1）。

K施設の居住エリアは1フロア4ユニット、3層であり、

表1 調査概要

調査方法	アンケート調査	施設ヒアリング
調査日時	2014年12月15日～ 2015年1月9日	2016年3月7日～ 2016年3月16日
調査対象	M県下149高齢者施設	同4高齢者施設
内容	施設概要 離職の状況について 職員の身体的負担 入浴支援、排泄介助、移乗支援 における福祉機器の活用状況	対象：施設長/介護主任 職員構成 離職の状況について 夜勤と日勤の体制 職員の精神的負担

表2 対象施設の概要および運営体制

施設名	K施設	L施設	M施設	H施設
設立年	平成25年	平成19年	平成17年	平成26年
平均要介護度	3.3	3.6	4.0	3.5
離職率	8%	11%	17.1%	27%
離職率 要因の 順位	①結婚 ②身体的負担 ③精神的負担	①精神的負担 ②身体的負担 ③賃金が安い	①精神的負担 ②身体的負担 ③賃金が安い	①精神的負担 ②賃金が安い ③身体的負担
スタッフ 男女比	2:3	2:8	6:4	2:1
勤務時間帯	朝番：6:40～15:40 日勤：9:00～18:00 遅番：13:00～22:00 夜勤：21:50～翌7:50	朝番：7:00～16:00 日勤：8:00～17:00 遅番：11:00～20:00 夜勤：20:50～翌7:00	朝番：7:00～16:00 日勤：8:00～17:00 遅番：12:00～21:00 夜勤：21:00～翌7:00	朝番：6:40～15:40 日勤：8:00～17:00 遅番：13:00～22:00 夜勤：21:50～翌6:50 (間に2～5時間のパート増員)
スタッフ 休憩室	あり(各階に1か所)	なし	あり(各ユニット1か所)	あり(全体1か所)
夜勤体制	5名/ 10ユニット	3名/ 6ユニット	7名/ 4ユニット (1人2時間 休憩回し)	3名/ 6ユニット
階数	4階	2階	1階	5階

表3 精神的負担の要素

負担と感ること		K施設	L施設	M施設	H施設
利用者	夜勤時に複数の入居者の要望に対応できないこと	×	×	-	×
	入居者の言葉や暴力	△	×	×	△
	最期の見送り対応	-	-	×	-
介護仕事	収納スペース不足による負担感	-	×	-	-
	死角が多い	△	-	△	△
	集中型浴室のシフト調整業務	-	×	×	×
	夜勤後の残業や生活リズムの混乱	△	△	×	×

凡例：××よくある ×時々ある  
△たまにある -ない

The Architectural Planning to Reduce the Burden of Care Staff in  
the Nursing Home for the Elderly no.2  
Facilities planning factors for de-stressing of the nursing staff

ZHANG Yandong, MORI Shiho, KATO Akikazu

生活単位はユニット内で完結している。休憩室はフロア毎に1か所設置され、それ以外にも職員の居場所の選択肢がある。ユニット毎の事務スペースは繋がっており、夜勤職員は2つのユニット間の移動動線が短くなる。また、日中でも緊急の場合は隣接ユニットの職員の救援が見込めるため、孤立によるストレスが軽減できると推察される。

L施設の居住エリアも同様に1フロア4ユニット、2層であるが、浴室はユニット外である。休憩室はなく1階廊下を区切り休憩スペースとしている。浴室はユニット空間の外に配置されている。また、トイレにより廊下の見通しが聞かない部分があることから、職員にとっては見守りに対する不安が生じると推察される。更に、隣接するリビング間の可動式壁は日中は開放されているため、小規模な空間が失われ入居者の生活の質に影響を及ぼす可能性がある」と推察される。

M施設は、平屋分棟型のユニット構成であり、各ユニットに休憩室が配置されている。夜勤者4名が各2時間ずつ休憩を確保しているものの、残る3名中1名は3ユニットを見守るの必要があり、その負担も大きい。更に、各ユニットは玄関が独立していることから、夜勤者の見守り動線は急激に増加する。浴室は、一棟に集中して配置されており、入浴介助のために職員がユニットを空ける時間は比較的長くなると推察される。

H施設は、1フロア2ユニット、5層からなる。休憩室は施設全体で1か所設置されているが靴を脱げる設えではない。浴室は各フロアに一般浴室、機械浴室、家庭浴室があるが、ほとんどがユニット空間の外に設置されているため、職員はユニットから離れざるを得ない。集中した浴室配置は残された職員の業務にも影響を与えることとなる。

各施設の精神的負担軽減からみた建築計画的要素をまとめた(表5)。休憩スペースの確保や死角の除去は概ね守られているが、これら要素が負担軽減に与える影響の大小については今後検証していく必要がある。

#### 4. まとめ

介護職員における精神的負担軽減のための施設計画要素については、以下が挙げられた。

##### 1) 見守りが容易な平面計画

夜勤職員の動線の短縮と孤立による不安軽減のためには、ユニット間のサービス動線の確保が必要であるが、利用者空間の動線確保は家庭的規模を損ねる可能性があるため留意が必要である。また、死角の除去は優位であるが、生活の質とのバランス確保が重要である。

##### 2) 職員専用空間の充実

休憩室、特に寛ぐことのできる例えば畳スペースは非常に需要が高く、他にも屋上庭園や一人になれる場所が入居者同様に求められている。

##### 3) 職員配置の充実

介護業務が最も多忙な起床・朝食時間帯では、臨時職員の雇用が効果的であるといえる(図2)。単独業務や夜勤者が残業することは負担を大きくするだけでなく、事故の危険性も高くなる。

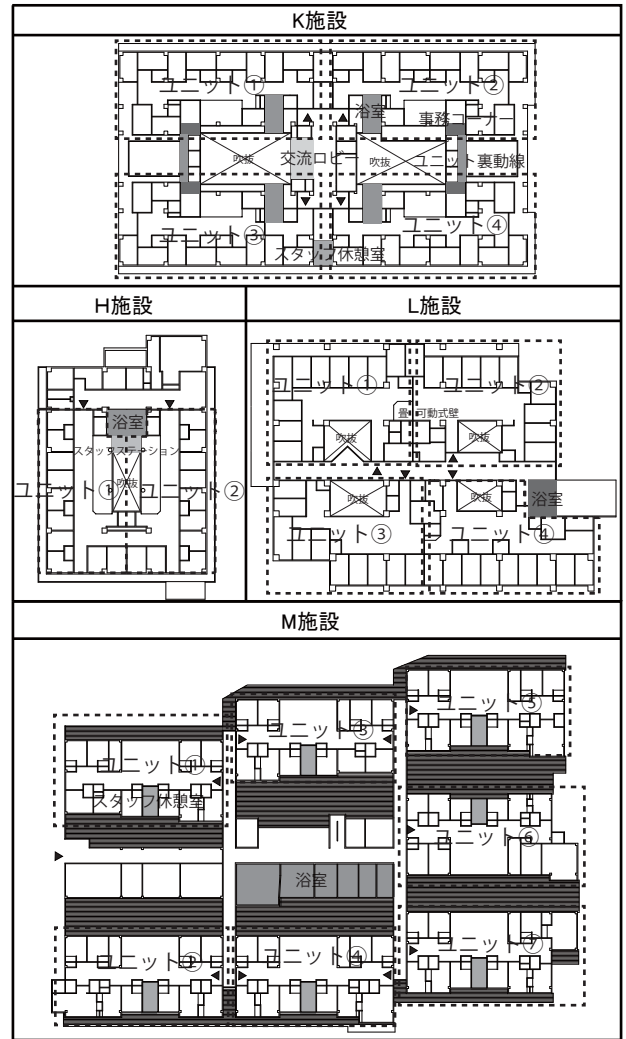


図1 施設平面の特性

表4 精神的負担を軽減するための要素

項目		K施設	L施設	M施設	H施設
ハード面	スタッフ休憩スペースの確保	◎	△	○	△
	ユニット間裏動線	◎	○	×	△
	死角が少ない平面プラン	○	△	△	△
ソフト面	分散型の浴室	◎	×	×	×
	夜勤帯の休憩確保	△	×	◎	×
単独職員時間帯のパート増員		×	×	×	○

凡例：◎充実している    ○整備している  
△一部整備している    ×整備していない

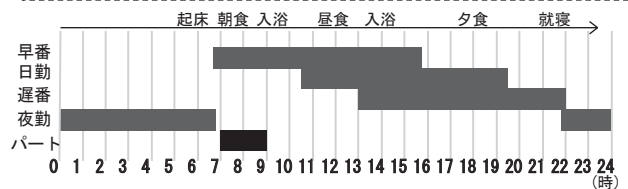


図2 H施設内1ユニットにおけるシフト体制

参考文献

- 毛利 志保他1名：高齢者福祉施設における福祉機器の活用を踏まえた課題 その1浴室空間における実態と課題，日本建築学会学術講演梗概集（近畿），2015.9，pp25-26
- 石井 敏：ユニット型特別養護老人ホームの夜勤介護における行為と空間滞在の分析，日本建築学会計画系論文集，656号，2010.10，pp2315-2324

\* 三重大学大学院工学研究科 博士前期課程  
 \*\* 日本福祉大学健康科学部 准教授・博士（工学）  
 \*\*\* 三重大学大学院工学研究科 教授・博士（工学）

\* Graduate Student, Graduate School of Eng., Mie Univ.  
 \*\* Associate Prof., Nihon Fukushi Univ., Dr. Eng.  
 \*\*\* Prof., Graduate School of Eng., Mie Univ., Dr. Eng